

歴史教育内容編成における内容配列順序の構造

—イギリス, 1970年代初等・中等用歴史教科書 (Schofield & Sims 社) の分析を通して—

竹中伸夫

(2004年9月30日受理)

The Structure of Sequence about the Formation of Teaching Contents of History

—the case of for primary and secondary history textbooks which Schofield & Sims LTD. published in the 1970s—

Nobuo Takenaka

The aim of this study is to explain the structure of sequence about the formation of teaching contents of history textbooks which attached importance to the modern world.

Therefore I used history textbooks which have been published in nearly same times from same publisher, inquired the formation, and the scope and sequence of teaching contents, compared the one for primary education with the one for secondary education, and analyzed the structure of the formation of teaching contents.

Consequently, I explicated the scope structure that alternate from the study of change in social life to the study of change in social structure, the sequence structure that advance steadily about social image and the formation of teaching contents of history which gradually acquired ideas which explain the general society.

Key words : Teaching history, formation of teaching contents, sequence

キーワード : 歴史教育, 教育内容編成, シークエンス

I 問題の所在

学校における歴史教育は、学校段階や子どもの発達段階に応じて、いかなる学習内容を取り上げ、どのように段階的に配列し、どのような学習をおこなっていくべきなのだろうか。これは歴史教育内容編成の問題である。なぜこうした問題を考察する必要があるのだろうか。それはこの問題を巡る研究の現状による。

教育における内容編成を考察するために必要な研究主題は、第一に内容領域 (スコープ) であり、第二に内容配列順序 (シークエンス) である。そして第三にこれら二つに基づいた内容編成原理である。これら三

本論文は、課程博士候補論文を構成する論文の一部として、以下の審査委員に審査をうけた。

審査委員 : 池野範男 (主任指導教官), 片上宗二,
小原友行, 棚橋健治, 磯崎哲夫

点が解明されて初めて、教育内容編成を論ずることが可能となる。

それでは、歴史教育における教育内容編成研究は、これまでどのようにおこなわれてきたのだろうか。歴史教育の内容編成のあり方を体系的に研究した代表的なものとしては、梅津正美氏の一連の研究¹⁾があげられるだろう。氏はこれらの研究で、歴史教育内容編成の内容領域としての社会史の意義を説明している。

しかしながら、氏の研究は、内容領域に着目し、そこから内容編成原理を抽出していると言え、その内容編成における内容配列順序の視点が希薄である。

そこで研究を進展させるためには、これまでは重視されなかった内容配列順序の問題を取り入れた研究が必要となってくる。そのためにイギリスの歴史カリキュラムの中からいくつかを取り上げ、分析対象とする。

イギリスを対象として選定したのは、第一には、同国の歴史教育改革に見られる特質による。すなわち、

同国では伝統的に、歴史教育は独立した歴史科においておこなわれてきたために、社会科のような統合した教科によっておこなうべきとする立場からの批判に、何度もさらされてきた。こうした批判のたびに、同国では、歴史教育をその内容編成や役割（目標）を発展・拡大させることでその批判に答えてきたという経緯がある²⁾。そのため、多様な歴史カリキュラムが存在しているといえる。

第二に、同国の教育界が、教育における内容配列順序（シークエンス）にも非常に関心を払ってきているということがあげられる。歴史教育界においても内容配列順序をも含み込んだ歴史教育内容編成の研究を進めており、適切な事例であると判断できる。

そこで筆者は、多様に存在するイギリスの歴史カリキュラムを、その教育目標や内容編成の特質から類型化し、その内容領域、内容配列順序、内容編成原理をそれぞれ抽出・解明していく研究をおこなっていくことにした。本小論では分析対象として、初等用歴史教科書シリーズ『絵で見る歴史』と中等用歴史教科書シリーズ『ブリテンと世界』³⁾（両シリーズともに、1970年代中頃にSchofield & Sims社が発行）の二つを取り上げる。なぜならこれらのシリーズが、1970年代のSocial Studiesという教科の発達を契機に、歴史教育の役割の再認識がおこなわれた結果成立したと思われ、現代社会理解の必要性を意識した教育内容編

成上の特質を持っており、歴史教育史的に見た場合、一つの典型モデルとして考えられるからである。

以下では、これら二つのシリーズを分析対象とし、まずは、シリーズそれぞれについて、巻の構成に基づいてスコープとシークエンスを抽出する。その後、それらを一体として見ることで明らかになる、歴史教育内容編成の構造と原理の解明をおこなう。

II 『絵で見る歴史』の歴史教育内容編成

1. 内容領域～自国の社会生活史～

初等教育用の歴史教科書『絵で見る歴史』シリーズの単元名を表1として示そう。本シリーズは、過去から現在までを時代順に学習させ、全4巻で構成されている。第1巻は古代から中世まで、第2巻は中世から近代まで、第3巻は近代、そして第4巻は近現代についての学習がなされている。

また各巻は、いくつかの大単元で構成されている。例えば第2巻は、「ノルマン」、「プランタジネット」、「ランカスターとヨーク」、「テューダー」の四つの大単元に分けられる。これらはイギリス（イングランド）の過去の王朝や統治していた民族の名前である。このようにしてみると、本シリーズの特徴は過去から現在までを、時代（王朝）に区切って、その時代（王

表1 『絵で見る歴史』シリーズ単元一覧

<p>最初の道具 旧石器時代: 視覚資料</p> <p>最初の絵画 穴居人の時代: 視覚資料</p> <p>最初の死刑執行人 新石器時代: 視覚資料</p> <p>ポタンドン 青銅器時代: 視覚資料</p> <p>ブリタニア: プリテン人の土地 初期鉄器時代: 視覚資料</p> <p>1巻</p>	<p>ノルマン</p> <p>用心深いアウワード 新しい英雄 ギルバートと東方系の淑女 王権の進化論 白舟号事件 雷音からの道標 ノルマン人による統治の時代: 視覚資料(a) 城壁(b)ドレス(c)仕事(d)遊び(e)旅行 エニシタの花 王のジョーク イングランドの暴君 王権の時遊科人 イングランドに上つての貴族ガオルギオス ロビンヒフットの物語 アーサー王太子の物語 マグナカルタ</p>	<p>2巻</p> <p>新しい伝説が現実のものとなる 火薬陰謀事件 ボカホルタスの物語 ピルグリムフアーゼ チャールズ皇太子とオリヴァー・クロムウェル 鳥は飛んだ ルーハート皇太子と彼の飼い犬"Boy" 最も勇敢な女性 ローヤル・オークの記念日 ほうきと鐘 初期ステュアート朝の時代: 視覚資料(a)ドレス(b)道路と住居(c)内装と家具(d)貿易(e)旅行と輸送(f)スポーツと娯楽 羅賓 Hood 伝説 ロンドンにおけるベストの大流行 りんこの落下 "ロンドンの大火! ロンドンの大火!" 悪夢の始まり 7人の修道士 名誉革命 快活なマーガレット コービーハウス 初期の頃のイングランド式お茶会 ディック・ターピンと"極悪なエリザベス女王" 後期ステュアート朝の時代: 視覚資料(a)ドレス(b)建築物(c)内装と家具(d)旅行と輸送(e)貿易(f)スポーツと娯楽 老僧王 偉大な音楽家 快活なチャールズ皇太子 勇敢な騎士 アブラハムの絶頂期 初期ハノーヴァー朝の時代: 視覚資料(a)ドレス(b)建築物(c)旅行と輸送(d)貿易(e)スポーツと娯楽</p>	<p>3巻</p> <p>"ボストン茶会事件" 農場と工場 孤立した大鐘 "系系"の父" ドラファルガーとワーテルロー "編纂家" 改革の騎士 最初の郵便配達夫と警察官 初期の自転車 子どもたちとその友達 後期ハノーヴァー朝の時代: 視覚資料(a)ドレス(b)建築物(c)貿易と産業(d)農業の進歩(e)社会生活 "プリテン島の"幼い女王" "古くからの父なる川、テムズ" "ランブを持つ淑女" 玄帝 新しい医者と医師 暗黒の大鐘 19世紀: 視覚資料(a)ドレス(b)建築物(c)旅行と輸送(d)貿易と産業(e)社会生活 "蘭行者エドワード" 新しい世紀 飛行機の発明 "新聞の切り抜き" 新聞通覧 王は民衆にかく語りき 王者の味方 第2次世界大戦 イギリス連邦 新しい時代の幕開け 20世紀: 視覚資料(a)ドレス(b)建築物—住居と学校(c)建築物—公共の建築物(d)輸送(e)発明</p>
---	--	--	--

Hounsell, H. E. . Pictorial History Book 1-4, Schofield & Sims LTD. . 1975-76. より筆者作成。

朝) ごとに年代順に学習させることにある。

では、各大単元、すなわち各時代(王朝)においては、何を教材事例として取り上げているのだろうか。大単元「テューダー」⁴⁾を事例として見てみよう。「テューダー」は六つの小単元からなる。「赤バラの勝利」、「イングランドにおけるバラ戦争」、「学校と学童」、「オレンジ王家が廃れたとき」、「ボウリング」、「ウォルター・ローリ卿」である。

まず冒頭の二つでは、テューダー朝が起こったきっかけとなった政治的出来事(バラ戦争)の結果と影響が学習される。続く「学校と学童」では大学での教育制度とその宗教との結びつきを、また「オレンジ王家が廃れたとき」では大陸系からスコットランド系への王家の交代による特権階級の生活様式における変化が、そして「ボウリング」では当時騎士たちの間で流行した娯楽が、最後に「ウォルター・ローリ卿」では探検家として有名なある貴族独自の生活様式が、それぞれ示されている。本大単元はこのように、隆盛を極めた当時の特権階級の生活様式の把握が可能となる事例を学習対象として選択している。また本大単元には、具体的な視覚資料－当時の生活において利用されていた様々な道具を描いた絵－を手がかりとした、その時代の一般的な人々の生活様式を具体的に把握させようとする部分も付随している。

このように、テューダー朝の時代における主要な政治的出来事のみならず、その時代の特徴(宗教権力が強かった社会・国外への進出が始まった社会など)が如実に表れている日常生活における事例をもとにした当時の特権階級や、具体物をもとにした当時の一般的な民衆の、生活様式の把握がめざされている。これまでの歴史教育において中心的な学習内容として取り上げられてきた政治史のほかに、生活様式という観点からその時代(王朝)を捉えさせるための学習内容を取り上げ、当時の社会生活全体を広く捉えさせようとしている。つまり、当時の事象(政治的出来事から生活様式まで)をもとにした社会生活の学習、がおこなわれているのである。

こうした各大単元における学習を、過去から現在まで、時代(王朝)に区切って、年代順に学習させているのであるから、個々の事象の特徴から見た当時の社会の様相の現在に至るまでの変遷を捉えさせようとしている。本シリーズはすなわち、個々の事象の特異性の変遷という視点から、自国の社会の変容過程を理解させようとしているものであると位置づけられる。

2. 内容配列に基づき形成される社会像の順序性

～一側面的社会像の形成から多側面的社会像の形成へ～

それでは、手がかりとする事象の選択基準は、シ

リーズの前半と後半で全く同じなのだろうか。あるいは学習事例として取り上げられている事象から、形成される社会像に何らかの差異が生じ、これらの観点から本シリーズ内の内容編成の構造が抽出できるのではないか。第1巻「ローマ時代」、第4巻「20世紀」の二つの大単元を検討し、その内容配列に見られるシーケンスを抽出したい。

①初等前期の内容配列～一側面的社会像の形成～

第1巻の大単元「ローマ時代」の単元名とそれをもとに抽出した学習構造を示したものが表2である。表2は左列に単元名を示し、その学習内容を提示し、そうした学習内容から学習の構造、すなわち社会のいかなる側面を捉えさせようとしているか、を抽出した。網掛け部分は訳出による部分を示している。

「ローマ時代」は八つの小単元からなる。まず小単元「黒い髪と戦勝パレード」では、ローマ人とは外見上の容姿が異なるブリトン人のカラクタスが捕えられ、引き回される様子が、あるローマ人の少女の目を通して語られる。そしてシーザーをはじめとするローマの将軍たちによるブリタニア侵攻の過程についてふれ、その結果としてカラクタスが捕えられたこと、彼らブリトン人が、ローマの庇護のもと、幸せに暮らしたことが記される。これらのことから、ローマ時代のブリタニアは、異なる人種であったローマ人によって侵略・統治されていたという当時の社会の特色が、子どもに意識されることとなる。

続く「月の名前」では、現在の月の名前の語源である古代ローマの神々とその信仰などについての学習が行われている。これらの学習に際し、冒頭で現代との相違点が指摘されていることから、これは古代ローマの宗教的特異性を学ばせようとしているものと解釈できる。またここでは、八月の語源でもある初代皇帝アウグストゥスについてもふれられ、彼の統治時代にキリスト教が発生したという事実も提示されている。

続く「アヴァロン島の伝説」以降は、キリスト教とそのイギリスへの流入の過程で活躍した個人の物語についての学習がなされている。

以上のことから、大単元「ローマ時代」は、ローマ時代のイギリス社会を示しており、異民族に統治され、そのために外来の宗教であるキリスト教が流入し、根付いていく過程にあった社会であるという社会の様相(社会像)が形成されることとなる。すなわち全体として、宗教という一側面からローマ時代のイギリス社会を説明していることになり、宗教という一側面におけるローマ時代のイギリス社会の社会像の形成をめざす単元構成になっているといえるだろう。こうした一側面的社会像形成をめざす単元構成は、第1巻

表2 「ローマ時代」の単元配列から見た学習の構造

単元名	学習内容	学習の構造		
ローマ時代	黒い髪と戦勝パレード	ローマ軍によるイギリスへの版図拡大過程と先住民とローマ人の外見の差異	当時のイングランドが異なる人種であったローマ人によって侵略・統治されていたこと	外来の文化が流入しやすい状況にあった社会
	月の名前	現代にも名残をとどめる古代ローマ時代独自の神々(その信仰)とキリスト教の起こり	ローマ人の宗教的特異性とキリスト教	外来の宗教が浸透していき過程とそれに寄与した個人の物語 外来の宗教が浸透していった社会
	アバロン島の伝説	古代ブリトン人の桃源郷伝説とキリスト教の流入	キリスト教の流入と現地の信仰	
	聖アンデレの物語	十二使徒アンデレ(スコットランドの守護聖人)の布教活動と殉教の物語	初期キリスト教徒の受難の物語	
	聖ゲオルギオスの物語	皇帝に背いてキリスト教を公認し、殉教したあるイギリスの執政官(イングランドの守護聖人)の物語	部分的浸透とキリスト教徒の受難の物語	
	聖アルビンの物語	ある個人がキリスト教に改宗し、迫害されながらもイギリス国内にその教えを広めていく物語		
	聖ヘレナとその息子	キリスト教の公認を決めたコンスタンティヌス帝とその母に起きた奇跡の物語	伝道の正当化とその秘話	
	聖パトリックの物語 ローマ人による統治の時代、視覚資料	アングロ=サクソンによってイングランドを追われアイルランドでの布教に寄与したある教父(アイルランドの守護聖人)の物語 街の様子・住居・貨幣・衣服・輸送形態などの具体物の絵	イギリス全域への浸透の物語	
			一側面的社会像の形成 外来の宗教の浸透・固定化が見られた社会	

Hounsell, H. E., *Pictorial History Book 7*, Schofield & Sims LTD., 1975, pp. 27-48. より筆者作成。
網掛け部分は筆者による訳出の部分でそれ以外は筆者の分析による部分を示している。

表3 「20世紀」の単元配列から見た学習の構造

単元名	学習内容	学習の構造			
20世紀	「調停者エドワード」	アフリカ大陸への進出・泥沼化の過程とその改善・終息に寄与したエドワード七世の人物像	エドワード七世と国際協調政策	国際協調の重要性に気づき始めたこと 二十世紀初頭のイギリスの社会情勢 (国際協調と科学技術発展の社会)	
	新しい世紀	エドワード七世の統治期前後に起こった電話や自動車などといった新発明や新発見の秘話	科学技術の発展における個人の努力	新たな交通手段やコミュニケーション手段が開発されたこと	
	飛行機の発明	古代から続く人類の空に対する飽くなき欲求と飛行機の開発競争における個人の努力	航空機開発・発展における個人の努力		
	「新聞の切り抜き」	ジョージ五世統治時代に起きた第一次世界大戦、対独参戦のきっかけ・戦況の個別的展開・戦況の変化・戦争が当時の社会生活に与えた影響	世界規模の大戦の発生	大戦を契機に国際協調へと至ったこと	大規模な戦争による混乱と国際協調の社会 多側面的社会像の形成 科学技術が発展した社会 国際協調の社会
	国際連盟	英独を中心とした第一次世界大戦の戦後処理と国際連盟の理念・機関・当時の評価など	世界的国際協調体制の始まり	世界大戦期のイギリスの社会情勢 (つかの間の国際協調と科学の発展の社会)	
	王は民衆にかか語り	第一次世界大戦以後のラジオ放送発展の歴史とそれが当時の社会生活に与えた影響	イギリスでのメディアの登場	新たな通信手段が見られたこと	
	若者の味方	外遊(外交)好きの二人の国王(エドワード八世とジョージ五世)と彼らの行った航海と政治	二人の国王とその対外協調政策	国際協調よりも自国の利害を重視したこと	
	第2次世界大戦	国際協調体制の崩壊と第二次世界大戦の発生から終戦に至るまで、また戦後処理と国際連合について	世界規模の大戦の発生		
	イギリス道徳	帝国主義時代から現在に至るまでのイギリスの対外的結びつきについて	イギリスにおける対外協調政策の歴史	国際協調が表面的には確立したこと	戦後のイギリスの社会情勢 (冷戦下での国際協調路線と科学技術発展の社会)
	新しい時代の幕開け 20世紀、視覚資料(a)ドレス(b)建築物—住居と学校(c)建築物—公共の建築物(d)輸送(e)発明	エリザベス二世統治下の福祉国家政策と科学技術の発展による核の時代の到来 衣服・住居や建築物・交通機関・様々な発明品(冷蔵庫や洗濯機など)の絵	福祉国家政策と科学技術による冷戦状況 様々な発明によるイギリスの生活様式の変化過程	科学技術により生活様式が激変したこと	

Hounsell, H. E., *Pictorial History Book 4*, Schofield & Sims LTD., 1976, pp. 107-155. より筆者作成。
網掛け部分は筆者による訳出の部分でそれ以外は筆者の分析による部分を示している。

の各単元に共通する。

②初等後期の内容配列～多側面的社会像の形成～

第4巻の大単元「20世紀」の単元名とそれをもとに抽出した学習構造を示したものが表3である。表2と同じ要領で作成した。

「20世紀」は十個の小単元からなる。これらの小単元では、二十世紀にイギリスを統治した国王や女王（エドワード七世からエリザベス二世まで）がいかなる施政を行ったか、あるいはその統治時代にいかなる出来事が起きたか、が為政者の順に語られている。

まず小単元「調停者エドワード」では、エドワード七世が即位に際して、アフリカでの戦争が終結するまで即位を延期したこと、つまり、それほど他国との協調を重んじる人物であったことが示される。そしてその即位延期を決断させたブーア戦争に至るまでの南アフリカでの歴史的経緯が語られた後、即位したエドワード七世が他国との協調関係の構築を重視する政策を実施し、それを実現させたことが述べられる。このことからこの小単元では、エドワード七世の人となりと彼が行った政策を手がかりとして、これまでは帝国主義のもと外国侵略を行ってきたイギリスにおいて、他国との協調がはじめて意識されるようになったという当時の社会の特色を把握させている。

続く「新しい世紀」と「飛行機の発明」では、二十世紀初頭のイギリスにおいて、電気エネルギーの有用性が意識されるようになったり、ベルによる電話の発明や自動車・飛行機の開発などが相次いだりしたことが開発秘話とともに示されている。したがって、科学技術が飛躍的に進歩し、新たな交通手段やコミュニケーション手段など生活様式が大きく変化させる発明がなされた社会であったという特色が理解されることとなる。

これら三つの小単元によって、二十世紀初頭のイギリス社会が国際協調をめざす一方、科学技術の発展が認められた社会であったことが確認される。

続く「新聞の切り抜き」から「第二次世界大戦」では、つかの間の国際協調と科学技術の発展が見られた世界大戦期のイギリス社会の特徴の把握が、そして「イギリス連邦」と「新しい時代の幕開け」では、冷戦下での国際協調路線と科学技術の発展が見られた戦後のイギリス社会の特徴の把握が、それぞれなされている。

このように本大単元では、二十世紀のイギリス社会を初頭、大戦期、戦後に分け、それぞれの時期について上述の二つの特色を理解させようとしており、二十世紀のイギリス社会は国際協調路線を志向し、科学技術の発展が顕著に見られた社会であったという社会の

様相（社会像）を形成させようとしている。つまり大単元全体として、国際協調と科学技術の進展という複数の側面から二十世紀イギリス社会を説明していることになり、国際関係、科学技術という観点から多側面的な社会像の形成をめざす単元構成になっていると言えるだろう。こうした単元構成は、第2巻以降の各単元に共通する。

III 『ブリテンと世界』の歴史教育内容編成

1. 内容領域～自国の社会構造史と現代世界の社会構造～

中等教育用の歴史教科書『ブリテンと世界』シリーズの大単元名を、表4として示そう。本シリーズは全6巻からなるが、第1巻から第4巻までと、第5、6巻では、その学習対象が異なる。

第1巻から4巻までにおいては、過去から現在（第二次世界大戦終結時）までを、自国を中心に時代順に学習させている。第1巻「初期の時代」は古代から中世まで、第2巻「出現の時代」は中世から近代、第3巻「拡大の時代」は近代、第4巻「激動の時代」は近現代が、その範囲である。一方第5、6巻では、今日の世界について学習させている。第5巻「今日の世界：政治」における政治的な側面と第6巻「今日の世界：社会・経済」における社会・経済的側面から、現代（19世紀以降）の世界を捉えさせようとしているのである。

それでは、第1巻から第4巻の学習を、より具体的に見ていこう。第1巻から第4巻は「物語（The Narrative）」と「項目（The Sections）」の二つの部分で構成されている。

まず「物語」について見てみよう。例えば第1巻には「最初の人類」、「最初の諸文明」、「初期のヨーロッパ」、「中世」の四つの大単元が設定されている。この「物語」における学習を明らかにするために「中世」を事例として取り上げよう。

「中世」⁵⁾では、「ノルマン人の侵攻」、「ウィリアム一世」、「ウィリアムの後継者」、「ヘンリー二世」、「十字軍」、「ある十字軍の騎士の物語」、「ジョン王」、「ウェールズ」、「スコットランド」、「イングランドとフランス」、「ヘンリー五世とフランスの侵攻」、「ジャンヌ＝ダルク」、「ビザンツ帝国の終焉」、「バラ戦争」の十四個の小単元が設定されている。まず冒頭の「ノルマン人の侵攻」から「ヘンリー二世」までは、イギリスにおけるノルマン人による封建体制に基づく政治制度について学ばれる。次の「十字軍」と「ある十字

表4 『ブリテンと世界』シリーズ単元一覧

	第1巻	第2巻	第3巻	第4巻	第5巻	第6巻
初期の時代	物語	テューダー朝とステュアート朝	ハノーヴァー家	海外侵略の時代	導入	人口
	物語	テューダー朝の始まり	ウィッグ党とジャコバイト	帝国の新しい版図	協調体制に向けた試み	移民
	物語	"ハロルド王"	大ビットと小ビット	旧来の帝国	今日の世界	人口増加の原因:食糧生産地域と生産量の増大
	物語	幼い王	革命	新しい国家	二者択一の社会:ソ連, 中華人民共和国, USA	人口増加の原因:衛生面の改善
	物語	不幸な君主	ネルソン提督	戦争への道	帝国主義とナショナリズム	人口改善の原因:住環境の改善
	物語	黄金時代とその栄光	革命か、それとも発展か	第1次世界大戦, 1914-18	人種不寛容	今日の世界
	物語	キリスト教徒のなかで最も賢いばか	農業	共産主義の台頭	結論	経済成長の段階
	物語	"温和で優しい王子"なのか、それとも"血に飢えた男"なのか?	建築物と都市計画	ファシズムの誕生		計画経済, 混合経済, 無計画経済
	物語	クロムウェルと共和政	衣服	戦後のアメリカ		労働:導入
	物語	陽気な君主	貿易	ブリテンと連邦		労働:漁業
出現の時代	項目	ジェームズと名草革命	勢力関係	戦争がヨーロッパ全土に波及する		労働:製造業と鉱業
	項目	ウィリアムとステュアート朝の終焉	陸上輸送と海上輸送	第2次世界大戦, 1939-45		労働:小売業と輸送
	項目	農業	陸上輸送と海上輸送	農業		労働:家事労働
	項目	建築物と都市計画	戦争	建築物と都市・国家計画		労働:公共サービス
	項目	衣服	芸術	衣服		福祉国家
	項目	貿易	政治体制	貿易		20世紀の日常生活にかかる費用とその一般的な生活様式
	項目	勢力関係	価値観	勢力関係		ブリテンにおける社会秩序
	項目	陸上輸送と海上輸送		陸上輸送と海上輸送		余暇
	項目	戦争		戦争		家族
	項目	芸術		芸術		
項目	政治体制		政治体制			
項目	価値観		価値観			

Darvill, P. A. and Stirling, W. R., *Britain and the World 1-6*, Schofield & Sims LTD., 1974-79. より筆者作成。

軍の騎士の物語」では、イギリスにおける宗教の権威の重要性とそれが主導した十字軍について学ばれる。続く「ジョン王」以降では、イギリス（イングランド）やその他の地域における他地域への侵攻とそれに対する抵抗や反応、当時の社会状況などが学ばれる。

このように「中世」では、その時代のイギリスの事例をもとに、政治制度や社会状況に関して中世という時代の特異性を捉えさせることとなっている。各時代の特異性の学習を時代順に行うのであるから、「物語」では、個々の時代の特徴とともに、その現在に至るまでの変遷を捉えさせているといえる。

次に「項目」について見てみよう。「項目」ではどの巻にも共通する十の項目が設定されており、その項目は「衣服」などといった具体的な日常生活に関わるものから、「勢力関係」のように当時の社会情勢が分かるもの、あるいは「政治体制」のように、その社会全体の抽象的な制度に関わるものまで、非常に多岐にわたる。これら十の項目に関する学習を第1～4巻においておこなうことで、各巻の担当する時代のその項目に関する差異が明らかとなるとともに、(各項目の学習において具体的に保証されているわけではないが)十の項目を関連させてみることでその時代の構造を把握することも可能とならしめている。

第1巻から第4巻ではこのように、「物語」において特徴ある時代のイギリス社会を取り上げ、その時代の社会の特異性を過去から現代までとらえさせるとともに、「項目」においてその時代の過去社会の構造を、十の項目を通して構造的に把握させることで、社会の構造の変遷という視点から、イギリス社会の変容過程を理解させようとしていると位置づけられる。

一方で今日の世界を扱う第5巻と第6巻については、どのような教材事例についての学習がなされているのだろうか。

まず第5巻では、「導入」、「二者択一の社会:ソ連, 中華人民共和国, USA」、「帝国主義とナショナリズム」、「協調体制に向けた試み」、「人種不寛容」、「結論」という六つの大単元が設定されている。最初の「導入」と最後の「結論」をのぞけば、国際協調の必要性や人種差別などといった現代の世界で解決が求められている政治的な課題といってもいいだろう。このうち「人種不寛容」⁶⁾では、「導入」、「南アフリカにおけるアパルトヘイト」、「アメリカ合衆国における黒人」、「イギリスにおける人種差別」という四つの小単元が設定されている。これらの小単元では、イギリスを含む各地域で発生している現代世界の人種問題を事例にし、それぞれの事例ごとにその発生の背景や現状などにおける特殊性や一般性が学ばれている。すなわち、人種問題がある特定の地域(アメリカ・イギリス・南アフリカ)でどのように発生・展開しているかを事例ごとに学習することで、人種問題を通じた地域の特異性を明らかにしているのである。

つまり第5巻では、現代の世界が共通して抱えるいくつかの政治的課題について、その代表的な事例の発生・展開を学ばせることで各課題が持っているメカニズムを把握させるとともに、地域的に比較学習させることでその特殊性を把握させる学習、政治的諸課題の地理的な学習、をおこなっているといえる。

次に第6巻では、「人口」以下、十八個の大単元が設定されている。このうち冒頭の五つによって現代の世界が抱える人口増加問題を学習させようとしてい

る。また「経済成長の段階」から「労働：公共サービス」では、様々な職種の労働問題や経済的格差などについて学習されている。このように、第6巻では人口問題や労働問題などといった社会・経済的諸課題の学習がおこなわれている。このうち「家族」⁷⁾では、「導入」、「産業革命が家族に与えた影響」、「ビクトリア女王時代の家族」、「新しい家族形態は20世紀においてどのように発展してきたか」、「女性の解放」、「ブリテンにおける女性の解放」、「対称的な（Symmetrical）家族」という七つの小単元が設定されている。ここでは家族におけるジェンダーや個人間の紐帯の希薄化などといった問題を、十九世紀から現在に至るまでを歴史的に見ることによってどのように展開してきたかが学ばれている。すなわち、家族の多様化の歴史（産業革命によって都市労働者が増え核家族化が進み、それが家族内の個人間の紐帯を弱める方向に進展していったことや、二十世紀に入って女性が自立し、性別役割分業に関する考え方に変化が見られるようになってきたこと）を通して、現代の世界がどのように発展してきたかを明らかにしているのである。

すなわち第6巻では現代の世界が抱える社会・経済的諸課題がどのような経緯で発生し現代のようになったのかを捉えさせようとしている。つまり社会・経済的諸課題の歴史的な学習をおこなっているといえる。

このように、現代世界が抱える諸課題を地理的・歴史的に学ばせることで、諸課題を通して現代の世界の地域的特異性や歴史的発展課程を構造的に把握させようとしている。すなわち、第5・6巻は、諸課題の学習を通じた現代世界の構造を把握させる構成となっている。

2. 内容配列に基づき形成される社会像の順序性

～一般的社会像の形成から複合的社会像の形成へ～

本シリーズは、その第1巻から第4巻においては、過去の諸事象をもとにした自国の社会構造、第5・6巻では諸課題をもとにした現代世界の構造、をそれぞれ捉えさせていた。

ここでは、先に分析したシリーズと同様に、社会像形成の観点から中等前期・中等後期の内容編成の構造を検討したい。そのために第1巻より「初期のヨーロッパ」、第6巻より「人口」の各大単元を取り上げる。

①中等前期の内容配列～一般的社会像の形成～

第1巻の大単元「初期のヨーロッパ」の単元名とそれをもとに抽出した学習構造を示したものが表5である。表2と同じ要領で作成した。

大単元「初期のヨーロッパ」は七つの小単元からなる。まず、小単元「初期のヨーロッパ」では、400年

から800年という時期の設定をした後、教会が重要な社会的地位にいたことや様々な民族が外部から侵攻してきたことによって非常に混乱していたことなど、当時のヨーロッパ社会の一般的な状況を概観している。

続く「アーサー王」から「ヴァイキング」までは、その時代のイギリス社会の特殊性を学ぶ単元となっている。例えば「アーサー王」では、アーサー王伝説の具体的内容とともに、混乱と不安定という当時のイギリス社会の状況がアーサー王伝説を生み出したことについてふれている。すなわちアーサー王伝説を手がかりとした当時のイギリス社会の特異性の把握がおこなわれているのである。そして「カール大帝」と「アルフレッド大王」では、こうした混乱と不安定のヨーロッパ社会とイギリス社会を安定化させようとした二人の偉人のなした業績について学ばせている。

この大単元「初期ヨーロッパ」は、大きく二つの部分に分かれることが指摘できる。すなわち、教会至上で混乱と不安定な状況にあったという当時の社会状況について学習する部分と、その暫時的終息と混乱の継続という社会状況について学ぶ部分とであり、またそれぞれは、ヨーロッパ全土について概観する部分とイギリスについて学習する部分とになっている。イギリスの事例を手がかりにして、ある時代のイギリスの社会状況を学ぶとともに、それが当時のヨーロッパ全体に共通するものであることを意識することで、当時のイギリスのみならずヨーロッパ社会全体に共通する一般的な社会の様相（社会像）としても形成される。大単元全体として、初期のヨーロッパの時代のイギリス社会における、他地域にも共通しうる一般的な社会像の形成をめざす単元構成になっていると言えるだろう。個々の単元によって多少の差異はあるが、こうした構成は、第1巻から第4巻に共通する。

②中等後期の内容配列～複合的社会像の形成～

第6巻の大単元「人口」の単元名とそれをもとに抽出した学習構造を示したものが表6である。表2と同じ要領で作成した。

「人口」は八つの小単元で構成されている。まず冒頭の小単元「人口増加、1750-1970」において、該当時期の世界の人口の推移が述べられ、人口増加が深刻な問題となっていることが提示される。

続く「人口増加の抑止」から「人口増加の原因、1750-1970」までは、人口変動に見られる一般性を把握する部分となっている。例えば「病気」では人口を減少させる一般的な要因としての流行性疾患について学習されているし、また「人口増加の原因、1750-1970」では死亡率と出生率という人口増加予防に結びつく概念を理解するとともに、イギリスを事例とし

表5 「初期のヨーロッパ」の単元配列から見た学習の構造

単元名	学習内容	学習の構造				
初期のヨーロッパ	初期のヨーロッパ	400年から800年という時期設定 時代像の概観(異民族の侵攻による混乱と不安定の時代、教会が社会的に非常に重要な役割を果たした時代)	当時のヨーロッパ社会が異民族の侵攻によって混乱し不安定だったこと 当時のヨーロッパ社会においては教会が社会的に非常に重要な役割を果たしていたこと	一般性	ヨーロッパ社会の社会状況における一般性の把握 混乱と不安定の社会・教会至上の社会 一般的社会像の形成 混乱の暫時的終息と継続	
	アーサー王	アーサー王伝説の具体的内容 アーサー伝説が生まれ語り継がれた社会的要因	アーサー王伝説と英雄待望論をもたらした当時のイギリス社会との関係	特殊性		
	アングロ=サクソン人の侵攻	アングロ=サクソン人による侵攻の特徴(物的証拠の乏しさ、推定される侵攻経路、支配領域)	イギリスにおけるアングロ=サクソン人の侵攻			ヴァイキングなどに侵攻され長期間にわたって混乱していたこと 世俗の権力が宗教的権威を重視していたこと
	イギリス人の改宗	アングロ=サクソン人によるキリスト教の駆逐 その後のキリスト教化の過程とそれに寄与した四人の人物	イギリスにおける宗教的権威の駆逐と復権の過程			
	ヴァイキング	ヴァイキングの生活様式(信仰や埋葬)とその活動によってイギリスにもたらされた新たな脅威	イギリスにおけるヴァイキングの侵攻	一般性		
	カール大帝	宗教的権威を利用したカール大帝による混乱したヨーロッパ社会の收拾過程とその死後の混乱状況の概観	異民族の侵攻によって混乱し不安定だった当時のヨーロッパ社会を、教会の権力に基づき安定化に部分的に寄与した個人の行為とその影響	特殊性		
	アルフレッド大王	ヴァイキングによる脅威に立ち向かったアルフレッド大王と彼の偉業(対外的勝利・内政の充実)	デン人の侵攻によって混乱し不安定だった当時のイギリス社会の安定化に部分的に寄与した個人の行為とその影響	特殊性		

Darvill, P. A. and Stirling, W. R., *Britain and the World 1: The Early Years*, Schofield & Sims LTD., 1974, pp. 47-56. より筆者作成。
網掛け部分は筆者による訳出の部分でそれ以外は筆者の分析による部分を示している。

表6 「人口」の単元配列から見た学習の構造

単元名	学習内容	学習の構造			
人口	人口増加, 1750-1970	世界の人口変動の把握と人口増加がもたらす問題状況の確認	驚異的な人口増加を続ける人口変動状況と食料不足などといった問題性の認識	人口増加の問題性・危機性	複合的な人口変動要因を持つ社会 現在の人口変動状況に地域性のある社会 人口変動における一般性の把握 特殊性の把握
	人口増加の抑止	人口増加が招く危険性に対する警告とその抑止策	人口増加抑止の必要性 人口増加予防策(出生率のコントロールなど)と人口増加阻害要因(戦争・病気・飢饉)について	人口増加抑止の具体的方略とそのメカニズム	
	病気	天然痘の死者数の推移について	人口増加阻害要因としての流行性疾患		
	飢饉	世界各国における飢饉の発生状況とその原因(異常気象)の説明	人口増加阻害要因としての飢饉 人口増加阻害を引き起こす具体的要因の理解		
	戦争	第二次世界大戦における国別戦死者数(戦闘員と非戦闘員別)	人口増加阻害要因としての戦争	人口増加予防策とそれが引き起こす人口変動モデル	
	人口増加の原因, 1750-1970	イギリスにおける人口増減の傾向性 イギリスにおける死亡率・出生率の変動状況 人口変動の一般的モデル	人口変動における一般的傾向性(多産多死→多産少死→少産少死)の導出		
	死亡率の変化	先進国と途上国の比較から見た死亡率や平均余命と社会構造との関連メカニズム	死亡率の現状(途上国の多死傾向と先進国の少死傾向)	人口変動における個別的地位(先進国と途上国の社会状況と人口変動状況)の解明	
出生率の変化	先進国と途上国の比較から見た出生率と家族形態や人口構造・社会構造との関連メカニズム	出生率の現状(途上国の多産傾向と先進国の少子化傾向)			

Darvill, P. A., *Britain and the World 6: Our World Today: Social and Economic*, Schofield & Sims LTD., 1979, pp. 9-19. より筆者作成。
網掛け部分は筆者による訳出の部分でそれ以外は筆者の分析による部分を示している。

て人口変動がどのように進んできたかを考察し、社会における人口変動における一定の変動傾向を導出している。

残る二つの小單元では、人口変動に見られる個別的状況(特殊性)を把握させている。すなわち死亡率と出生率の国別の現状を示し、先進諸国は死亡率・出生率ともに低下し、現在では人口減少傾向にあるが、途上国では、現在まさに人口増加傾向にあるということ、が示される。つまり、社会状況の相違により現在の人口変動状況の特殊性を学習させているのである。

つまり大單元「人口」では、イギリスなどを事例として、現代世界全体に共通する人口変動傾向と人口変動要因という一般性を学習させるとともに、イギリスを含む先進地域や発展途上地域の現在の人口変動傾向の特殊性が学ばれることとなっている。すなわち、現代社会の人口という領域における地域ごとの特殊性と一般的共通性を同時に把握させよう構成となっており、全体として一般的傾向を持ちながらも内部に多様性をはらんでいるという複合的な現代世界の様相(社会像)を把握させる單元構成となっているといえる。こうした構成は、第5・6巻に共通する。

IV 内容編成構造と原理

前章までの両シリーズの分析をもとに、その内容編成における構造と原理を抽出したい。そのために図1を作成した。

	形成される社会像のシーケンス			
	初等前期	初等後期	中等前期	中等後期
	側面的社会像	多側面的社会像	一般的社会像	複合的社会像
現代世界の歴史・地理を基にした現代世界の全体構造				説明力の異なる他の社会も説明可能な一般的社会像を複数形成させる
自国の政治制度や社会状況に基づいた社会全体の構造			他の社会も説明可能な一般的社会像を複数形成させる	
初等後期: 自国の社会生活における特徴		ある個別的な社会だけを説明しうる社会像を複数形成させる		
初等前期: 自国の社会生活における特徴	ある個別的な社会だけを説明しうる社会像を形成させる			

図1 スコープとシーケンスに基づく内容編成構造

まずは、内容領域(スコープ)について見てみよう。両シリーズは全体を通して、自国における歴史上の社会とその生活や構造、ないしは現代世界の社会とその構造を扱っている。つまり、社会史に関する内容をその内容領域としている。その際、社会生活のような部分領域の歴史としての社会史⁸⁾から社会構造のような全体領域の歴史としての社会史⁹⁾へと展開するとともに、自国中心から現代世界全体へと拡大してい

た。つまり、初等では自国の社会生活の学習、すなわち日常生活などといった「社会的なるもの」の領域の事例を取り上げてある社会を学習させており、中等では自国や現代世界全体の構造の学習、すなわちそういった特定の領域すべてを含みこんだ、ある時代の社会全体についての把握がめざされるもの、へと変容しており、また中等前期までは自国中心の内容編成となっていたが、中等後期では現代世界全体をその内容領域としているということである。すなわち、図1の左列のようになっていると言えるだろう。

次に、内容配列順序(シーケンス)について見てみよう。両シリーズは全体を通して、ある時代、ある時期の社会像の形成を行っており、その形成させる社会像に段階が存在する。すなわち、初等前期ではある時代の社会の側面だけを捉えさせ、後期になると、ある時代の社会の側面を複数捉えさせていた。また中等にはいると前期では、ある時代の社会のみならず他の社会にも適応しうる一般的なものとして、ある時代の社会の複数の側面を捉えさせ、後期に入ればそうした側面は、社会状況に応じて多様に存在することを理解した上で、現代世界の多様性と一般性を複合的に理解させていた。このように形成させる社会像が、従前の捉えさせ方を生かしながら、漸進するという構造になっているということが指摘できるだろう。まとめると、図1の上列のようになる。

それでは、以上のような内容領域と内容配列順序からは、その歴史教育内容編成に関して、いかなる段階が読み取れるのであろうか。本シリーズは、社会の一領域から社会の全体構造へとという観点の深化、自国中心から世界全体へとという領域の拡大、形成させる社会像の漸次的発展、によって歴史教育が四つの段階に組織されていた。

すなわち初等前期は、自国の社会生活を基にした一側面的社会像の形成をおこなうため、ある時代の自国だけを説明しうる、生活領域という分野からでも読み取れるような比較的表面的な、たった一つの社会像に関する特質を把握するという学習となっていた。すなわち、ある個別的な社会だけを説明しうる社会像を形成させる歴史教育となっている。

次に初等後期は、自国の社会生活を基にした多側面的社会像の形成をおこなうため、ある時代の自国だけを説明しうる、生活領域という分野からでも読み取れるような比較的表面的な、複数の社会像に関する特質を把握するという学習となっていた。すなわち、ある個別的な社会だけを説明しうる社会像を複数形成させる歴史教育になっている。

中等前期は、自国の社会全体の構造を基にした一般

的社会像の形成をおこなうため、ある時代の様々な社会を説明しうる、本質的かつ、一般的な社会像に関する特質を複数把握するという学習になっていた。すなわち、他の社会も説明可能な一般的な社会像を複数形成させる歴史教育になっている。

最後に中等後期は、現代世界の構造を基にした複合的社会像の形成をおこなうため、現代の様々な社会を説明しうる一般的な社会像に関する特質を複数把握させるとともに、ある一部の社会にのみ共通する特質とを把握させるという学習になっていた。すなわち、説明力の異なる他の社会も説明可能な一般的な社会像を複数形成させる歴史教育となっていた。

このように、歴史教育内容編成の配列順序を手がかりに歴史教育の段階を分析してみると、社会像形成を念頭に置いた段階的歴史教育が行われており、歴史的な社会をより一般的に説明するために歴史教育内容が編成されていることが判明した。

V 結 語

歴史教育を段階的におこなうためには、歴史教育内容編成を、どのように構築していけばよいのかという問題を追究した本小論では、1970年代イギリスの初等・中等用歴史教科書シリーズを取り上げ、その内容編成における構造と原理を抽出した。

本シリーズは分析の結果、スコープでは部分領域の歴史としての社会史から全体領域の歴史としての社会史への変容と内容領域の拡大、シーケンスでは形成される社会像の漸進構造、をとっていた。

これらの構造から導かれる特質として、第一に社会像形成を念頭に置いた歴史教育と内容編成をとっていること、第二に社会をより一般的に説明するための社会像形成をめざして歴史教育内容を編成していることを明らかにした。

本シリーズは、現代社会理解の必要性を意識した教育内容が含み込まれていた。1960年代から70年代にかけてイギリスでは、Social Studiesという現代社会そのものを対象とする教科の発展が見られた時代である¹⁰⁾。本シリーズはこの教科に対抗して、これまでの政治史的歴史教育内容編成に基づき歴史の各時代に関する歴史像形成を目的とした歴史教育を自己変革したものといえるだろう。この歴史教科書シリーズは、イギリス歴史教育改革史の一つの転換点となる歴史教育内容編成を提示したものと評価できる。

【註】

1) 例えば、梅津正美「社会史に基づく歴史内容構成

—Project on Social History Curriculumの場合—」全国社会科教育学会『社会科研究』第33号、1985年、pp.45-58、などがある。

2) 戸田善治「イギリスにおける歴史教育論争—『実用主義』と『本質主義』—」『史学研究』第182号、1989年、pp.58-74、などを参照されたい。

3) 分析対象は以下の通りである。

『絵で見る歴史』シリーズ

・ Hounsell, H.E., *Pictorial History Book1*, Schofield & Sims LTD., 1975.

・ Hounsell, H.E., *Pictorial History Book2*, Schofield & Sims LTD., 1976.

・ Hounsell, H.E. and Airne, C.W., *Pictorial History Book3*, Schofield & Sims LTD., 1975.

・ Hounsell, H.E. and Airne, C.W., *Pictorial History Book4*, Schofield & Sims LTD., 1976.

『ブリテンと世界』シリーズ

・ Darvill, P.A. and Stirling, W.R., *Britain and the World1: The Early Years*, Schofield & Sims LTD., 1974.

・ Darvill, P.A. and Stirling, W.R., *Britain and the World2: The Emerging Years*, Schofield & Sims LTD., 1976.

・ Darvill, P.A. and Stirling, W.R., *Britain and the World3: The Expanding Years*, Schofield & Sims LTD., 1976.

・ Darvill, P.A. and Stirling, W.R., *Britain and the World4: The Exploding Years*, Schofield & Sims LTD., 1974.

・ Booth, M.B., *Britain and the World 5: Our World Today: Political*, Schofield & Sims LTD., 1977.

・ Darvill, P.A., *Britain and the World 6: Our World Today: Social and Economic*, Schofield & Sims LTD., 1979.

4) Hounsell, H.E., *Pictorial History Book2*, 1976, pp.96-117.

5) Darvill, P.A. and Stirling, W. R., *Britain and the World1*, 1974, pp.57-79.

6) Booth, M.B., *Britain and the World5*, 1977, pp.205-244.

7) Darvill, P.A., *Britain and the World*, 1979, pp.213-230.

8) ユルゲン・コッカ著、仲内英三、土井美徳訳『社会史とは何か その方法と軌跡』日本経済評論社、2000年、p.81。

9) 同上、p.83。

10) Toebes, J.G., *History: A DISTINCT (IVE) Subject?*, E. J. BRILL, 1987, pp.141-209.

(主任指導教員 池野範男)